



福井城とは？

福井城の前身は、織田信長から越前を与えられた柴田勝家が築いた北庄城。天正11年(1583)に北庄城は焼失したが、関ヶ原の戦い後に越前に入った徳川家康の次男で福井藩初代藩主・結城秀康は慶長6年(1601)から6年がかりで北庄城を拡張・修築して新たな城を築いた。工事は全国の大名に割り振って手伝わせる天下普請で行われた。本丸を中心に周囲を二ノ丸、三ノ丸で囲み、四

重五重に水堀を巡らした環郭式の平城で、本丸北西隅の天守台上には高さ約30mで四重五層の壮大な天守が威容を誇っていた。なお、築城当時は「北庄」と呼ばれたが、3代藩主・忠昌のときに「福居」と改称、その後さらに「福井」となった。

天守は寛文9年(1669)4月の大火で焼失して以降再建されず、現在は本丸の石垣と内堀、天守台などが往時の様子を伝えている。



福井城本丸の北西隅にある天守台を上空から撮影

福井藩と越前松平家

関ヶ原の戦いで東軍が勝利すると、徳川家康の次男・結城秀康には越前国68万石が与えられ、福井藩が創設された。親藩の中でも御三家に次ぐ御家門筆頭の家柄。その後支藩の分封や相続の混乱などから石高は変遷したものの、幕末期には16代藩主・松平春嶽が藩政改革に努め、国政でも雄藩の一角として大きな影響力を発揮。廃藩まで17代にわたり福井を治めた。

結城秀康

初代藩主。結城秀康は天正2年(1574)、徳川家康の次男として生まれた。豊臣秀吉の養子となるが、その後、下総国(現茨城県南部)の名門・結城家を継いだ。関ヶ原の戦い後、越前に入り、福井藩を創設。北庄城と城下町の大修築を行って福井の礎を築いた。慶長12年(1607)、34歳の若さで病没した。

松平春嶽

16代藩主。名は慶永で、春嶽は号。徳川(田安家)斉匡の八男で、11歳で越前松平家を相続。藩内外から有能な人物を登用して藩政改革に取り組んだ。将軍継嗣問題では徳川慶喜を推す一橋派の中心人物で大老・井伊直弼と対立し敗れたが、その後、政事総裁職として復帰して公武合体を推進。明治維新後の新政府でも要職を歴任した。

福井城のここがすごい！

◎堀

四重五重に巡らされた福井城の水堀は、最も大きなものは「百間堀」と呼ばれ、幅は広いところで55間(約100m)あった。現在も残る内堀は幅約30m、高石垣は高さ約7mを誇っている。

◎石垣

福井城の石垣には足羽山産の笏谷石が使われ、天守台、大手門、櫓台などの重要部分は切込接、その他の部分は打込接による布積で見事に積み上げられている。



「慶長年中北ノ庄城下絵図」(越斐文庫、福井市立郷土歴史博物館保管)

江戸時代後期(約200年前)の 福井城下と現在

- ① 山里口御門—p6
- ② 御廊下橋—p8
- ③ 福の井—p10
- ④ 舎人門—p12
- ⑤ 養浩館庭園—p14
- ⑥ 福井神社—p16
- ⑦ 佐佳枝廻社—p18
- ⑧ 北庄城址・柴田神社—p20
- ⑨ 福井市グロフィス記念館—p22
- ⑩ 九十九橋—p24
- ⑪ 由利公正広場—p26
- ⑫ 左内公園—p28
- ⑬ 愛宕坂—p30
- ⑭ 瑞源寺—p32



福井市立郷土歴史博物館が江戸時代の福井城下絵図(松平文庫・福井県文書館保管)をもとに作成した地図を一部改変しました。

